



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 数量経済分析センター長)  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2014年10月13日)

## ポイント

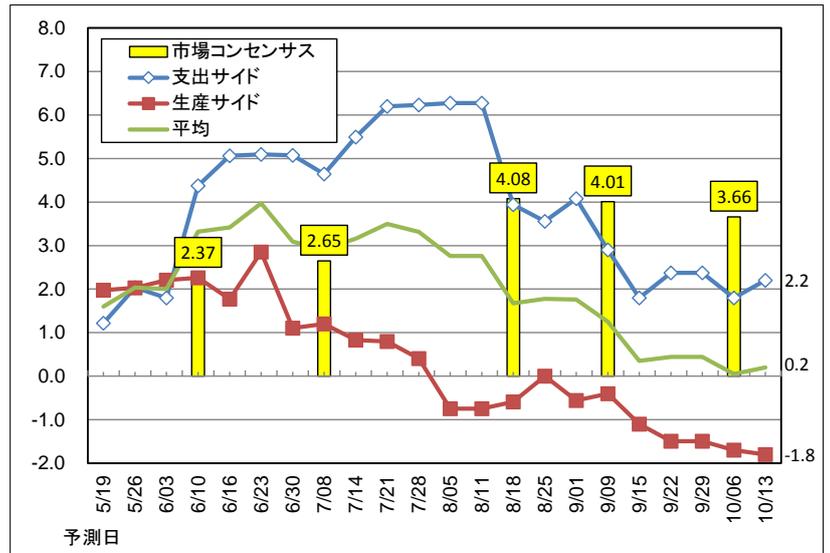
▶先週更新されたデータは、民間最終消費支出、民間企業設備、政府最終消費支出及び純輸出の予測値に影響を与える。

▶データ更新の結果、7-9 月期の実質民間最終消費支出と実質純輸出の予測値は幾分上方修正された。実質民間企業設備の予測値は先週から横ばい。一方、実質政府最終消費支出の予測値は幾分下方修正された。

▶今週の超短期モデル(支出サイド)は、7-9 月期の実質 GDP 成長率を前期比年率+2.2%と予測。先週の予測から幾分上方修正。内需が拡大に転じ、純輸出は小幅拡大するためである。

▶内閣府は景気の基調判断を、「下方への局面変化を示している」と引き下げた。これは、生産サイドの成長率予測と違和感のない動きとなっている。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2014年7-9月期(%, 前期比年率換算)



### <8月景気動向指数は景気の局面変化を示唆、生産サイドの予測と違和感はない>

先週(10/6-10)更新されたデータは、9月の景気ウォッチャー調査、消費者態度指数、8月の第3次産業活動指数、消費総合指数、景気動向指数、情報サービス業売上高、機械受注統計及び国際収支状況である。これらは、民間最終消費支出、民間企業設備、政府最終消費支出及び純輸出の予測値に影響を与える。

データ更新の結果、7-9 月期の実質民間最終消費支出と実質純輸出の予測値は先週から幾分上方修正された。実質民間企業設備の予測値は先週から横ばい。一方、実質政府最終消費支出の予測値は先週から幾分下方修正された。

このため今週(10/13)の超短期モデル(支出サイド)は、7-9 月期の実質 GDP 成長率を前期比+0.5%、同年率+2.2%と予測。先週の予測(+1.8%)から幾分上方修正された。7-9 月期は、内需が拡大に転じ(前期比+0.4%)、純輸出は小幅拡大する(前期比+0.1%)。ちなみに10月9日発表された10月のESPフォーキャスト調査によれば、7-9 月期実質 GDP 成長率の市場コンセンサスは+3.66%と前月(+4.01%)から下方修正されたものの、超短期予測より1.5%ポイント程度高い楽観的な予測となっている。

8月の景気一致指数7カ月移動平均は3カ月連続の下降となった。結果、内閣府は景気の基調判断を、5カ月ぶりに「下方への局面変化を示している」と引き下げた。足下生産関連指標は低迷しており、生産サイドの実質 GDP 成長率予測はマイナスを示している。基調判断の引き下げは、それとは違和感のない動きとなっている。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。  
・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。  
・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690